小海老 札幌大學内

八田三郎 殿

東京

東京市麻布区霞町二八

井手三郎

かくまつ

ゝ本部殿

相模十七ヶ所郡
ニ芳賀横到来ス
郡議ヲ以相州
帝國ホテル集会ス和
川侯を中心ニ分務ス
人伊藤総京末ル国会(弐)
別島為村勝ヤ衆位と
我ニ布ル集会ハ是ニ
対地来月ヤニ株を満た
ルニ中会せり報会
侯爵ハ桂井ハニ分野ニ

我らが知れ無念なれ共で
斯地未曽ヤゝ株を満たし
よりゝ中々世あり教会
信者へ桜井保之助野ゝ
御付合日本あい之口し続きて出
遊びの所徳川慶久公と
用事ありこの頃の人々無る
大正ゝ名出しの頃のいへく字
とも此思ふ事あり高橋
家は硬く了解信の名
を出されてるが異論なき
のみならず人を勧誘して
自己の眼と引込まれるが
破信なきの恥ありて人
のとなり自主論は厚遇しと
の動きあられ流石高橋

自己の所と引込まれたる
破倫なきの恥ありて今
日となり自己高い屋敷しと
の動き考へん流石高橋
心配さん清浦子の異存
なりしに市川況しく離
疎したる結果大抵
然なりと存じ高橋氏
今晩呼陪して生い多
分二十五日迄市川と共に
西下するとお部屋のゆれ
ば橋要り一緒中て
ゆく不安
廿日 廿三日
八田三郎大臣

疎したる結果大抵る
然たりと存じ高橋氏
今晩呼陵こそ生じ変
分二十五日迄市川と共に
西下するつもりとお既のはれ
乃ち横雲り一数申して
ようく不安
廿日　廿三日
八田三郎大尉
使